

2010年の第4次「トヨタ環境取組プラン」最終年に向け環境経営強化と定着を図る

2010年度は、第4次「トヨタ環境取組プラン」の最終年であり、これに向け2009年度は連結環境マネジメントのさらなる強化、定着を図りました。連結環境マネジメントは目標をほぼ達成。また、トヨタ「生物多様性ガイドライン」を基本に取り組みを推進、継続しました。環境教育は体系化を図り、事務系従業員を中心に環境配慮事項を取り込んだ新プログラムを開始。バイオ緑化事業は開始10年目の節目を迎え、諸事業を継続。Eco-VASによるLCAにより、新型車・フルモデルチェンジ車全車を評価、環境負荷の低減を確認しています。

マネジメント 連結環境マネジメントの強化

地域別環境委員会の活動定着

海外事業体における確実な環境取り組み推進と、さらなるグローバル体制強化のため、2002年から地域ごとの環境委員会を順次立ち上げてきました。各委員会では各地域トップ参画のもと、調達、生産、物流、販売等、各分野における年度

方針に基づく取り組み状況の確認、および改善事例の横展開、各地域の環境課題への対応について議論しています。

2009年度は、TMCの第5次「トヨタ環境取組プラン」(2011~2015)を各地域に説明し、各地域のプラン作成を要請しました。今後は、トヨタと各地域環境委員会との連携により、グローバルな環境取り組みのさらなる充実、強化を継続的に進めます。



南米環境委員会

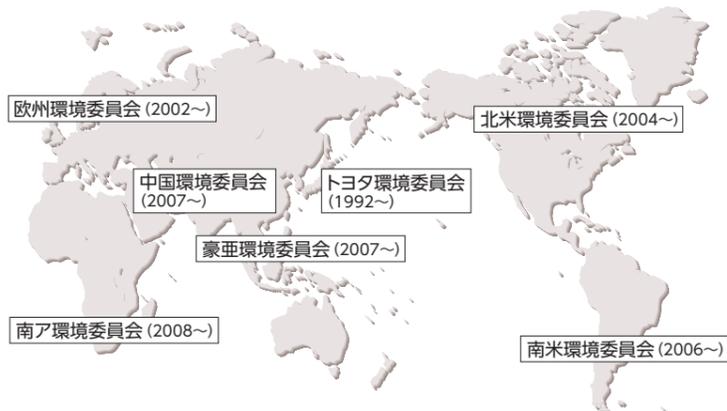


豪亜環境委員会



南ア環境委員会

グローバルな環境経営の推進体制



各委員会開催時の主な議題

環境委員会	開催日時	主な議題
欧州環境委員会	2009年 4.7、10月 2010年 1月	・エネルギー/温暖化対策等 中長期環境取り組み ・大気環境対策への取り組み ・環境負荷物質管理状況 ・サステイナブル・プラントの取り組み ・第5次環境取組プランの策定
中国環境委員会	2009年 4.11月	・生産・物流部門環境改善事例 ・開催事業体での現地確認 ・分野別活動報告 ・第5次環境取組プランの策定
豪亜環境委員会	2009年 11月 2010年 3月	・分野別活動報告 ・温暖化防止に向けた各分野の取り組みトピックス ・第5次環境取組プランの策定
南米環境委員会	2009年 5.12月	・分野別活動報告 ・第5次環境取組プランの策定
南ア環境委員会	2009年 7月 2010年 1月	・分野別活動報告 ・第5次環境取組プランの策定

2009年度連結環境マネジメント取組方針と結果

2009年度は、生産・販売分野等、年度目標の確実な達成に向けた取り組みを推進。生産分野は計画的に対策を実施し、ほぼ目標を達成しました。販売・その他の分野では、各社ごとに年度プランを策定し、推進しました。

	2009年度取組方針と活動結果			2010年度の方向性		
	取組方針	目標	活動結果	取組方針	目標	
全体	<ul style="list-style-type: none"> 各地域環境委員会活動の定着化とTMCとの連携体制の強化 効率的・効果的な地域別環境委員会の運営 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域委員会の定期開催 	<ul style="list-style-type: none"> 地域別環境委員会を定期的に開催 欧州環境委員会-4回 中国環境委員会-2回 豪亜環境委員会-2回 南米環境委員会-2回 南ア環境委員会-2回 	<ul style="list-style-type: none"> 地域別環境委員会の自立化促進と、TMCと各地域委員会の一層の連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> 各地域委員会の定期開催 	
生産 (79社)	国内 (35社)	<ul style="list-style-type: none"> 各社、違反・苦情未然防止の徹底と2010年度目標達成に向けた取り組みの強化 違反・苦情未然防止活動の強化と未然防止啓蒙活動の継続実施 オールトヨタ生産環境会議、地域別環境委員会を通じた目標達成フォローの充実 	<ul style="list-style-type: none"> 違反・苦情ゼロと各社2009年度目標の達成 	<ul style="list-style-type: none"> 未然防止活動を展開してきたが、軽微な違反が発生(*違反7件、苦情0件)。対策はすべて完了 *:国内2件、海外5件 国内外連結会社においては、2009年度目標達成に向けて計画的に対策を実施し、ほぼ目標を達成 	<ul style="list-style-type: none"> 再発防止に向けた、未然防止活動の強化 各事業体2010年度目標達成に向けた国内環境会議体、地域別環境委員会を通じた取り組み強化 5ヵ年プラン(2011~2015年度)の策定フォロー 	<ul style="list-style-type: none"> 違反・苦情ゼロ 各社2010年度目標の達成 全社策定
	海外 (*44社)					
販売 (85社)	国内 (36社)	<ul style="list-style-type: none"> 1) 2008年度活動結果および2009年度年度計画の策定フォロー 	<ul style="list-style-type: none"> 2009年度計画目標の達成 全社策定 	<ul style="list-style-type: none"> 各社ごとに年度プランを策定して推進中 	<ul style="list-style-type: none"> 2009年度活動結果および2010年度年度計画の策定フォロー 5ヵ年プラン(2011~2015年度)の策定フォロー 	<ul style="list-style-type: none"> 2010年度計画目標の達成 全社策定
	海外 (*49社)	<ul style="list-style-type: none"> 1) 現状の取り組みを継続。 2) チェックリストについては、法改正・直近の事例等を踏まえ、内容を改訂 1) 原単位管理と過年度データとの比較管理 	<ul style="list-style-type: none"> チェックリストによる改善取り組みの継続 EPIの定着 	<ul style="list-style-type: none"> 「販売店CSRガイドライン」チェックリストにより、着実に推進 トヨタ自動車販売店協会主催の「CSR研究会」にて販売店に対し、改正「省エネ法」について説明 対象会社全社データ入力 販売店への原単位データ等のフィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> チェックリストによる改善取り組みの継続(チェックリストは、法改正、直近の事例等を踏まえ、内容の鮮度を確保) 原単位管理と過年度データとの比較管理 	<ul style="list-style-type: none"> 環境事故ゼロ 管理データのフィードバック継続
その他 (73社)	国内 (58社)	<ul style="list-style-type: none"> 1) 2008年度活動結果および2009年度年度計画の策定フォロー 	<ul style="list-style-type: none"> 2009年度計画目標の達成 	<ul style="list-style-type: none"> 各社ごとに年度プランを策定して推進中 	<ul style="list-style-type: none"> 2009年度活動結果および2010年度年度計画の策定フォロー 5ヵ年プラン(2011~2015年度)の策定フォロー 	<ul style="list-style-type: none"> 2010年度計画目標の達成 全社策定
	海外 (15社)	<ul style="list-style-type: none"> 2) 数値管理の充実 	<ul style="list-style-type: none"> EPIの定着 	<ul style="list-style-type: none"> 対象会社全社データ入力 	<ul style="list-style-type: none"> 数値管理の充実 	<ul style="list-style-type: none"> EPIの定着

*生販一体の10社はどちらにも含む

トヨタ生物多様性ガイドラインを基本に取り組みを推進

生物多様性は、気候変動とともに最も重要な地球規模の環境課題と言われ、世界規模で取り組みが進められています。国連は2010年を「国際生物多様性年」と定め、10月には愛知県名古屋市でCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)を開催。トヨタは、2008年3月に公表した「トヨタ生物多様性ガイドライン」に沿って、生物多様性に低負荷な技術の開発や、資源循環の推進を通じて生物資源の枯渇防止や自然環境の悪化抑制に貢献する等、様々な取り組みを展開しています。これらの趣旨は、2009年3月に策定された、「日本経団連生物多様性宣言・行動指針」とも合致して

トヨタ「生物多様性ガイドライン」

取り組みの基本的な考え方	
生物多様性の重要性を認識し、トヨタ基本理念に基づき、住みよい地球・豊かな社会の実現と、その持続的な発展を目指し、自動車・住宅事業、新規事業、社会課題への貢献等において、生物多様性に取り組めます。	
主な取り組み	
● 技術による貢献	トヨタはバイオ・緑化技術、環境技術等の可能性を追求することにより、生物多様性と企業活動の両立を目指します。
● 社会との連携・協力	トヨタは、政府・国際機関・NPO等、生物多様性に関する社会の幅広い層との連携・協力関係を構築することを目指します。
● 情報開示	トヨタは企業活動と両立する生物多様性に関する自主的取り組みや成果を開示することにより、広く社会と共有し、もって持続可能な社会の発展に寄与することを目指します。

おり、同宣言の趣旨に賛同し実践する企業の集まりである「日本経団連生物多様性宣言推進パートナーズ(2009年12月)」にも設立と同時に参加しました。また、ガイドラインの主旨を踏まえ、新しい中期計画である第5次「トヨタ環境取組プラン(2011～2015年)」の中に、「生物多様性の取り組み」と「自然共生社会構築に資する社会貢献活動の推進」の2項目を新たに織り込みました。

トヨタの主要な生物多様性取り組み事例			
区分	取組項目	具体的な実施事項等	主要関連ページ
自動車・住宅事業等	温暖化対策	●グローバルな燃費向上 ●生産・物流活動におけるCO ₂ 低減	24・25・29・30
	大気環境問題への対応	●排出ガス低減 ●VOC排出量の低減	38・39
	資源循環の推進	●リサイクル設計の推進 ●リサイクル材の使用拡大	32・33・34・35
	工場の森づくり	●その地域本来の植生種による植樹	46
	森林再生	●間伐による下層植生の回復(三重県)	77
	自然と共存し地域と調和した新研究開発施設の検討	●希少動植物の生息・生育環境の保全 ●谷津田周辺の環境改善 ●里山林の維持管理	※
社会課題への貢献	人材育成&希少種保護	●白川郷自然学校やトヨタの森での自然環境教育	77
	グローバル植林	●自生種を用いた植林(中国・フィリピン)	77
	トヨタ環境活動助成プログラム	●テーマを生物多様性と地球温暖化に絞り支援	77

※新研究開発施設の検討についてはホームページを参照ください
<http://www.toyota.co.jp/jp/environment/preservation/meeting/outline.html>

コラム

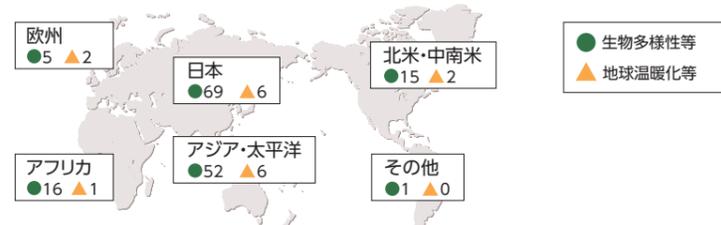
トヨタ環境活動助成プログラム「生物多様性」に配慮したこれまでの助成対象実績

トヨタは社会貢献活動の一環として、2000年度より民間非営利団体などの環境活動を支援するため助成プログラムを実施しています。中でもこれまで「生物多様性」を助成対象テーマとしたプロジェクトを数多く支援してきました。下記の地図はプロジェクトを大きく2つのカテゴリーに分け、地域ごとの取り組み数を掲載。代表事例としてラオスの取り組みを紹介します。

活動地域の内訳(累計)

活動対象地域	累計
アジア・太平洋	58
北米・中南米	17
アフリカ	17
欧州	7
日本	75
その他	1
合計	175

トヨタ環境活動助成プログラム助成プロジェクト助成対象内訳(累計)



2009年度のトヨタ環境活動助成プログラムの概要については77ページを参照ください

「ラオス中部における生活改善プロジェクト」による地域の自然資源保護活動(2009-2011)

ラオスは最貧国脱却を目指して急激な経済発展を図り、ダム、植林、鉱山開発が進んでいます。また人口増加や周辺国の需要もあり、自然資源の乱獲と枯渇化が深刻な問題となっています。NPO法人 日本国際ボランティアセンターが実施するこのプロジェクトでは、森林の保全や稲作技術改善等の農業活動を通して、地元住民の持続可能な生活向上、地域の自然資源を守る人材育成に取り組んでいます。



村の問題を話し合う様子

マネジメント **環境教育の充実**

環境教育を体系化し実施

毎年6月に全社員を対象とした「トヨタ地球環境月間」で各種行事を展開したり、11月には「トヨタエコドライブ月間」開催や地球温暖化問題・エコドライブに関するeラーニング等を通して環境意識の啓発に取り組んでいます。また、社員一人ひとりが高い環境意識をもって業務を遂行するために、職種、階層ごとに様々な環境教育を実施しています。専門教育では生産系環境保全管理者向けの「廃棄物適正管理等の環境関連順法教育」や環境内部監査員を対象とした「ISO14001環境マネジメントレベルアップ教育」、環境重要設備作業従事者を対象とした「重要設備の管理方法や緊急事態対応訓練」等を継続的に実施しています。2009年度からは、生産系で行われていた階層別環境教育に準じ、事務系社員向けに環境配慮事項を折り込んだ新入社員教育、管理者教育、経営人材育成プログラム教育を開始しました。

環境教育体系図



コラム

東京トヨペット、地域とかがわり合える環境に配慮した店舗づくり

2010年2月、東京トヨペット(株)はエコ拠点として葛飾店をリニューアルしました。葛飾店は板金塗装工場を併設する大型拠点で、屋上と壁面に設置した235枚の太陽光発電システム(50kW)によって、葛飾店消費電力の約8%、ショールームの消費電力分をカバー、年間約1万4,104kgのCO₂を削減します。エントランスには壁面緑化67㎡を確保。店舗周囲の緑地600㎡と併せて年間約1,446kgのCO₂吸収を見込みます。サービス工場も屋内密閉型とし、溶剤回収再生装置や水洗式排気浄化装置等を配備することで周囲環境負荷の低減に努めています。ご来店いただくお客様をはじめ近隣の住民の皆様からは「環境にやさしくてとても寛げる空間です」と感想をいただいています。今後、葛飾店をトリアルの一環とし、順次他店舗に展開します。

※京セラ株式会社による計測値



太陽光発電システムと壁面緑化

マネジメント **ビジネスパートナーにおける環境マネジメントの一層の推進**

【サプライヤー】 サプライヤーにおける環境取り組みの継続

環境はトヨタの最重要課題であり、サプライヤーと連携した活動を一層充実させるため、2008年5月までに、世界の車両系生産事業者各社(国内8社、海外23社)よりグリーン調達ガイドラインを発行し、サプライヤーの環境負荷物質管理の充実と自主的環境パフォーマンスの向上を推進しています。

【国内販売店】 「トヨタ販売店CSRガイドライン」で推進

1999年から「トヨタ販売店環境ガイドライン」、2005年から「トヨタ販売店CSRガイドライン」を作成・展開し、環境の取り組みを推進しています。同ガイドラインは販売店が自主的に取り組めるよう、様々な環境側面に対して、販売店として守るべき項目を本部と店舗に区分して網羅した自己チェック形式としています。また、2009年10月には、トヨタ自動車販売店協会主催のCSR講演会にて、販売店に対し、改正「省エネ法」について説明を行いました。

【海外代理店】 海外販売店環境リスク監査プログラム(DERAP)達成ディーラー比率の向上(70→76%)

海外販売店の環境リスクを監査するため、*DERAPを継続実施。この監査では、リスク低減、環境マネジメントシステム導入の基礎づくりのため、有害廃棄物や排水の処理など環境基礎5項目についての体制確立が目標です。2009年度は世界36カ国、2,470販売店を対象に実施、5項目達成のディーラーは全体の70%から76%に向上しました。

*DERAP (Dealer Environmental Risk Audit Program)